先日はてがたんにご参加いただき、ありがとうございました。てがたんの観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。次回 11 月のてがたんは、11 月 8 日 (土)で、「カモの衣替え」がテーマです。カモの夏の羽毛から繁殖羽への羽の抜けかわりの様子を観察します。ぜひご参加ください。
＊市民スタッフの方へ　次回のてがたん下見は、10 月 25 日 (土) の 9:30 からです。
よろしくお願いいたします。

10月の観察コースと内容

●コース：鳥の博物館→けやき広場→市民農園前 (解散)

●観察日時と天気：2014 年 10 月 11 日 (土)　10:00 ～ 12:00 晴れ

●参加人数：17 人 (大人 13 人、こども 4 人)

●市民スタッフ：7 人　(**古川克彌**、**湯瀬一栄**、伊東茂子、木村稔、染谷迪夫、竹本周平、松村定雄)

●鳥博職員：　2 人　(小田谷嘉弥・村松和行)

観察した生き物の記録

【観察できた主なイネ科・カヤツリグサ科の植物】
イネ科：エノコログサ、メヒシバ、アキメヒシバ、オヒシバ、イヌビエ、チヂミザサ、アゼガヤ、カゼクサ、ニワホコリ、アキノエノコログサ、キンエノコロ、コツブキンエノコロ、マコモ、ヨシ、ヌカキビ、コブナグサ、ジュズダマ、チカラシバ
カヤツリグサ科：コゴメガヤツリ、タマガヤツリ、カヤツリグサ、ハマスゲ、ヒメクグ、カワラスガナ、イヌホタルイ、キンガヤツリ、アゼガヤツリ

【鳥類】
カモ科：カルガモ、オナガガモ、コガモ／ハト科：キジバト／ウ科：カワウ／サギ科：ゴイサギ、コサギ／カワセミ科：カワセミ（声のみ）／モズ科：モズ／カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス／シジュウカラ科：シジュウカラ／ヒヨドリ科：ヒヨドリ／ムクドリ科：ムクドリ／ヒタキ科：ノゴマ（羽毛のみ）／スズメ科：スズメ／セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ
外来種や家禽：ドバト

【昆虫】
バッタ目：オンブバッタ、ショウリョウバッタ、トノサマバッタ、コバネイナゴ、ウスイロササキリ、コカマキリ／チョウ目：アカボシゴマダラ、ツマグロヒョウモン、キタキチョウ、モンキチョウ、モンシロチョウ、ヤマトシジミ、ルリシジミ、ウラナミシジミ
トンボ目：ギンヤンマ、アキアカネ、ウスバキトンボ
カメムシ目：ヨコヅナサシガメ

【クモ】ジョロウグモ、ナガコガネグモ、オニグモ、ナカムラオニグモ、イオウイロハシリグモ

【花・実】
イネ科：イヌビエ、メヒシバ、オヒシバ、チカラシバ、ジュズダマ、カゼクサ、ニワホコリ、マコモ、ヌカキビ、ヨシ／カヤツリグサ科：イヌホタルイ、ヒメクグ、カワラスガナ、アゼガヤツリ、キンガヤツリ／カタバミ科：カタバミ／ツユクサ科：ツユクサ、イボクサ／キク科：セイヨウタンポポ、コセンダングサ、ノゲシ、ヒメムカシヨモギ、ヒメジョオン、ハキダメギク、タカサブロウ、ハハコグサ、セイタカアワダチソウ、ノボロギク、コスモス（栽培品種）／アブラナ科：スカシタゴボウ／アカバナ科：ヒレタゴボウ、アカバナユウゲショウ／マメ科：シロツメクサ、アカツメクサ／ゴマノハグサ科：トキワハゼ／タデ科：イヌタデ、ミゾソバ／フウロソウ科：ゲンノショウコ／アゼナ科：ウリクサ／シソ科：イヌコウジュ／ムラサキ科：ハナイバナ／ミゾハギ科：ホソバヒメミゾハギ／クスノキ科：シロダモ（実）

観察した生き物の記録

今回のてがたんのテーマは「イネ科・カヤツリグサ科」でした。身近な草地を形づくる植物について、どんな種類があるのかじっくり観察しました。ヒヨドリが上空を南へ通過していき、秋の深まりが感じられました。

今月の案内人　古川克彌さん、湯瀬一栄さん

❶“ねこじゃらし”として親しまれるエノコログサ

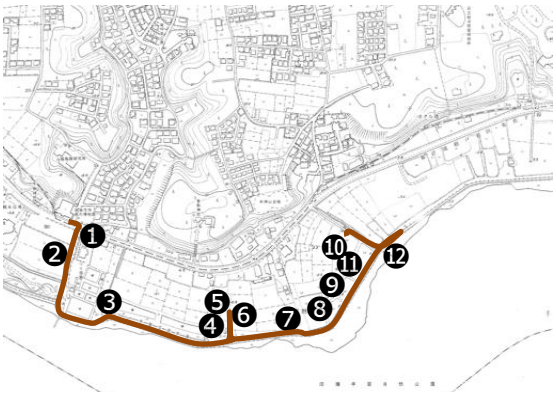
❷オヒシバの種は花序の裏にぎっしりついている

❸ねばねばした液を出すチヂミザサの実

❹ “阿佐ヶ谷”に似た名前の　“アゼガヤ”

❺エノコログサより大きく、しなだれるアキノエノコログサ

❻水路に生えていたタマガヤツリ（奥）とコゴメガヤツリを比べているところ。似ていますが、花のつき方が違います。



歩いたルートと観察した生き物

⓫”名もない草”はほとんどありません。身近な草にも名前があって多くの種類があることを感じられたと思います。

❼ピンクの花が咲いていたイヌタデ

❽帽子に止まったアキアカネ

❾あぜ道に生育していたキンガヤツリ

❿メヒシバに作られていたナカムラオニグモの巣

⓬遊歩道に散乱していた羽はノゴマのものでした

今月の鳥　スズメ（スズメ目スズメ科）

日本人にとって最もなじみ深い鳥はスズメでしょう。植物の実を好んで食べ、特にイネ科の植物は大好物です。スズメにとって、田んぼは餌場、住居の隙間は格好の巣作りの場所となってきました。しかし、そんなスズメの世界にも変化が起こっているようです。最近の調査では、都市部では農村部に比べて雛の数が少ないことがわかってきました。都市化が進んだ地域では、巣を作る環境や餌場が減っていることが影響しているようです。彼らの暮らしに起こっている変化を観察すれば、私たち自身の生活する環境の変化を知るきっかけになるかもしれません。

コゲラの古巣を覗いて繁殖に使えるか確かめるスズメ (茨城県 3月)

てがたんにご参加ありがとうございました。次回もお待ちしております。